

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 2 月 16 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600088		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム向原		
所在地	広島県安芸高田市向原町350番地 (電話) 0826-46-7022		
自己評価作成日	平成27年1月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600088-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年2月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

1階が保育園、2階がグループホームという合築施設であり、園児たちとの季節行事の交流はもちろんだが、天気の良い日にはグループホーム利用者が園庭まで散歩に行き、園児たちと一緒に遊んだり、また、居残り保育の時間になると園児が2階に上がり、お迎えまでの時間、利用者と一緒に過ごしたりと日常的な関わり、触れ合いが持てる形での交流に力を入れている。
グループホームの設えにおいても、施設感を感じさせないように意識し、利用者自身が「自分の家」として生活していただけるように、生活空間や環境づくりの充実に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、2階建て（1階：保育園、2階：グループホーム）洋風の斬新なデザインの建物で、広い駐車場を備え、JR向原駅より徒歩で数分と、公共交通機関を利用して家族や知人が訪問し易い状況に在り、本年3月で開設1周年を迎える。事業所の特徴として、①保育園児と利用者との日常的な交流が、園児・利用者の双方にとって有意義なものとなっている。②事業所全体にいわゆる、施設感がなく「気品と芸術」を感じさせる空気が醸されている。③温和で信頼感が漂う管理者と真摯で堅実さを備えた職員が一体となり、日々の業務に取り組まれている。以上の点が基盤となり、利用者の表情や言動に「安らぎと、ゆったりと人生を楽しんでいる姿」が表れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を基に、全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、好きな事を見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプランを作成し、共有している。	職員は、事業所理念と理念に基づいて策定した個人目標（年2回見直しと設定）を常時携帯して、理念が実践に活かされると共に、職員間で共有されるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣接する生涯学習センターみらいの貸し出し図書を利用したり、買物等でも地域の方と接点を持てるよう配慮したり等、日常的な関わりから情報収集をし、地域行事にも参加している。	事業所開設の昨年3月から今日まで、とにかく一人でも多くの近隣の方々に事業所の存在を知って頂く為にあらゆる機会を活用して、挨拶や情報収集・地域行事の参加等に取り組み、地域に溶け込むよう努力している。	本年度は、管理者が中心となり町内会役員を始め、町内の世話役・主だった方々との交流を深め、情報収集やアドバイスを受けると共に、事業所が地域貢献に取り組んでいる事を理解いただき、一層の地域住民との人間関係の構築に取り組まれる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加は基より、地域へ当グループホームの存在の理解を得られるように努めている。また、運営推進会議において利用者様、地域福祉関係機関にも積極的に参加していただき、発言等していただくことで理解を得ている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、行事や利用者の状況報告、参加者による意見交換の場を設け、意見を基にサービスの質の向上に活かせるよう、処遇会議を実施している。	運営推進会議メンバーに行政・保育園長・利用者・家族・職員等の参加を得て、ヒヤリハット・事故を含む状況報告や行事を報告し、参加者からの質疑応答等きめ細かな話し合いと意見交換が為されている。又、議事録は会議欠席の家族にも送付されている。	運営推進会議のメンバーとして、地域住民及び家族の方々の多数参加を得て、更に活発な意見交換と会議の充実を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取組み等の情報交換を行っており、連携、質の向上に努めている。	市役所の高齢福祉課、高齢者支援センターから職員の方々が、運営推進会議に毎回出席され、相談や意見交換が行われている。又、適宜役所に出向き、行政担当者との人間関係・協力関係づくりに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>安全面に考慮し、センサータイプの自動扉、インターホンを活用しながら各ユニット、テラスは開放し、また、1階の保育園へも職員と一緒に自由に行き来できる。</p> <p>身体拘束はしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、全職員に対して「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の周知・理解を図り、日々のケアにおいて問題と思われる時には、その都度、適切な対処について話し合っている。今後は内外の諸研修受講を通じ更なる研鑽を積むように取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常から利用者の小さな変化にも気づける力が養えるよう職員間で話し合い、研修に参加する等正しい知識が得られるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について、開設時に基本的な研修を行い、関連資料を閲覧できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時には面接で、十分な説明を行い、納得、同意を得られるようにしている。また、利用中も不安なく生活できるよう、必要に応じて説明できるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。また参加できない方には、会議の内容等を文書にてお知らせしている。</p>	<p>主として、日頃の面会時に家族の要望・意見を伺うようにしているが、運営推進会議や外出・受診支援依頼等の機会を捉えて意見聴取を図ると同時に忌憚のない意見が出るような人間関係づくりに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回以上、ユニット会議を開催している。またユニットの代表が参加してのグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換や報告の場を設け、サービス向上に反映させている。	毎月のユニット会議で職員意見の聴取や提案を聞く場が設けられ、職員全員が一体となり理想とするホーム作りについての意見交換・上層部への意見具申等を話し合っている。職員の意見から、入浴に関して浴槽内が深いため、浴槽内で使ういすを購入したこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用管理者による年2回、個別面談を定期的に行い、就労状況の把握、人事希望により働きやすさの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の開設時研修や新任職員研修、処遇職員研修等の参加、また認知症介護者実践研修等の外部研修の参加の機会を設けており、業務改善、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所と研修会等を行いながら交流・意見交換をし業務改善に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人が納得されるまで傾聴し、思いを聞き取る努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて家族の思いを知る機会を設け、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活や生活歴を通じて本人の得意分野等を見出し、押し付けではなく、教えていただく姿勢で共に生活していくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議で定期的な利用者の近況報告を行っている。面会にも来ていただきやすい雰囲気作りを大切に、利用者、家族、職員で協力し利用者を支えあう関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設関係者以外の来園に対しても明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また地域のお祭りや買物外出、個別レクリエーション等を通じて馴染みの人や場所に関わるれるよう努めている。	旧町内の利用者は少なく、市内の広範囲の地域から入居されているので日々の馴染みの方との触れ合いは難しく、電話や手紙などを活用したり家族の支援を仰ぎながら馴染みの場所や友人・知人との関係が途切れないよう支援している。又、正月やお盆に帰宅して馴染みの方との旧交を温める事もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活から馴染みの利用者を見つけただけのような関わりを心がけている。また、より一層深い関係や新たな関わりが持てるように配慮し、楽しんで頂ける行事の計画や支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了前には退所後の受け入れ先等の相談をし、関係機関と連携を密に図りながら、希望に添えるようにしている。その後の経過がわかるよう情報交換をし、これまでの関係を大切にできるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から意識して言動や表情等から利用者の思いを汲み取るような関わりを持つようにし、また利用者に対する家族からの一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向を把握しながらも、できるだけ本人の思いを尊重できるように努めている。	利用者と職員の触れ合いを大切にし、会話の中から利用者の思いや意向を把握するように努めている。時に、意向が不明確な点が見られる場合は、表情や生活歴・家族の話等を考慮して真意を押し量り、それとなく確認するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会に来られた方、また施設関係者からこれまでの生活の様子等のお話を聞かせていただき、グループホームでの生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のバイタルチェック時の数値、体操の際の表情や動きなどの様子観察をし、日々、利用者の生活リズムの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員全員の気づきや意見を日々記録に残し、月1回以上ミーティングを行い、カンファレンスを実施している。また家族の要望をできるだけ反映できるように介護計画を作成している。</p>	<p>暫定の介護計画を作成して、職員全員で計画と利用者の日々の状況を注意深く観察し日誌に意見・気づきを記録して、1ヶ月後に各職員の意見を取り入れた本計画を作成している。以降は毎月1回関係者でカンファレンスを実施し、利用者・家族にとって最適な介護計画となるよう見直し・変更が行われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録を行い、職員間で情報を共有している。排便、入浴、シーツ交換等の表も作成し、合わせて記録をし、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、どうすれば本人や家族のニーズに対応できるか、また満足していただけるように、その都度職員間で話し合い、柔軟な対応が出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事にすすんで参加したり、ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ながら本人が生き生きと生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族の希望のかかりつけ医で受診ができるよう、必要に応じて付き添いや往診の依頼等を支援している。</p>	<p>かかりつけ医は利用者・家族の希望に従って定め、受診は家族の協力を得ながら対応されている。又、協力医は月2回往診されている。いずれの場合も診断結果等の情報は職員・家族間で共有され、緊密な連携により適切な医療が受けられる様になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし、必要に応じて受診ができるように対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整えている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前面談の際に終末期ケアを実施していないことを十分に説明し、理解を得ている。重度化した場合は安心して生活できる場の提供や相談を随時、行っている。</p>	<p>重度化した場合や終末期ケアには事業所として対応出来ない事を事前に本人・家族へ説明し、理解納得を得ており、重度化した場合は、法人内の老健や協力病院などを紹介している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや吸引機を設置し、急変時に備えている。今後、対応できるように訓練の実施を検討していくこととしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し、保育園の避難訓練時に参加している。</p>	<p>毎月1回、保育園と合同で、2階にある広いテラスに避難をする訓練を実施し、火災報知機やスプリンクラー等のハード面や緊急連絡網も整備されている。今後、夜間想定訓練と近隣との協力・連携体制の構築に取り組み関係者との協議が進められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。また趣味や特技が活かせる生活の場を提供している。	事業所理念＝「利用者本位」こそ、利用者の尊厳と権利確保の基本として全職員の意思統一が図られている。しかしながら現実問題としては、実行困難な点を多々含んでいるので、今後「マナー研修」等の法人内外の諸研修を受講し一層の研鑽に取り組むこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい職員との関係が築けるように、利用者の思いに寄り添うような関わりを大切にしている。また、表出が困難な方には馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望にそってお化粧をしたりと身だしなみやおしゃれができるようにし支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をしている。好みに関しても本人や家族に嗜好調査を行っている。	食事は、1階の保育園の厨房から配食されている。朝のお味噌汁と月1回「おやつ作り」や「嗜好調査を活かした食事」をキッチンで職員と利用者が一緒に調理したり、個々の好みに少しでも沿えるよう取り組んでいる。又、家族と外食したり、行事食・誕生日にも特別な食事を提供されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日々，一人ひとりの体調をみながら，本人の希望する量にあわせて，提供している。水分補給についても，個々の体調や習慣に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人ひとりに口腔ケアをしてもらえるように言葉をかけたり，出来るだけ実施していただくように支援している。また，個々に応じて一部介助等も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立，一部介助等，個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には安心して行えるように配慮し，自立に向けた支援を個々に応じて行っている。	トイレでの排泄を基本として，利用者個々の排泄パターンを把握するとともに表情やしぐさの特徴を掴み，早目の誘導を行っている。入居時，紙パンツを使用されている利用者は布パンツ使用が可能となるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	適度な運動や水分補給で毎日，予防に努めている。排便チェック表を活用し，排便困難時には処方薬を服用していただけるよう医療機関との連携も図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を希望される利用者について，タイミングを合わせられるよう声かけを行い，また，できるだけ利用者の希望にそえるように支援している。	入浴の回数や時間は特に設定していないが，主に夕食後以外は入浴できるようになっており，利用者の希望に沿った入浴を実施し過去の生活習慣に合わせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日々、利用者の生活リズムを尊重し、一人ひとりの状態を見ながら、ゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方通り服薬していただき、確認している。また状態によっては職員で話し合い、必要に応じて家族への相談、報告をし、薬剤師とも連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>できる限り、好きな事やしてみたい事等をしていただけるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩や隣接する生涯学習センターみらいの図書館に職員と一緒にいる。また、趣味や食事等のため、家族と一緒に外出されている。</p>	<p>日常は、気候や体調に従ってテラスや近くを散歩したり、図書館や買い物に出かけている。又、四季に応じて花見・紅葉狩りなどを楽しみ、家族と食事に出かける等の外出機会を設けて、生活に変化を持たせるよう努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>和を強調した設えを意識し、穏やかに過ごせる空間づくりを心がけている。</p>	<p>共用空間は、いずれも広く余裕のある設計で、和を基調としたユニット（かたくり）と洋風のユニット（しょうぶ）それぞれの廊下には手すりも無く、調度品（椅子・テーブル・飾り棚）や陶器・絵画も洗練された品々で心豊かになる設えとなっている。広いテラスも周囲の眺めが素晴らしく、季節毎に花や野菜を植え、楽しめるようになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設け、利用者同士で自由に過ごせる場を確保している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものを持ち込んでいただく等して本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。</p>	<p>居室には、ベッド・整理ダンス・洋服ダンス・空調機器・洗面台が備え付けとなっていて、清掃が行き届き清々しい気分で過ごせると共に、めざまし時計、鏡、カレンダーなど必要とする物や好みの物を持ち込み、居心地良く過ごせるようになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム向原

作成日 平成27年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において参加の減少傾向が見られる。	家族の参加増を目指すと共に, 地域住民への参加促進に努める。	運営推進会議についての家族の周知やボランティア訪問されている方への参加アプローチをする。	1年間
2	2	地域における事業所の認識が未だに薄い。	地域住民及び地域企業へのグループホームの周知に努める。	地域密着型の施設ということを職員共々再認識をし, 地域・自治体行事の把握に努め, 参加, 交流をしていく。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。